

1961	<p>昭和36年5月15日 放射線化学中央研究機構準備室設置(本部) 放射線化学中央研究機構第1回運営委員会開催(本部)</p> <p>昭和36年11月21日 放射線化学中央研究機構の敷地選定委員会設置</p>	1967	<p>昭和42年6月1日 日本放射線高分子研究協会大阪研究所が原研に移管され「大阪研究所」として高崎研に付置</p> <p>昭和42年8月24日 エチレン中間規模試験装置によりポリマー連続取り出し実施</p> <p>昭和42年9月5日 クリプトン85新照射装置が完成</p> <p>昭和42年9月21日 〔原子力委員会、原子力特定総合研究の食品照射研究開発基本計画を決定〕</p> <p>昭和42年10月23日 じゃがいもや玉ねぎの照射試験を開始</p> <p>昭和42年11月29日 〔科学技術庁食品照射運営会議発足〕</p> <p>昭和43年3月3日 ポリ塩化ビニル改質用パイロット装置完成</p>
1962	<p>昭和37年7月11日 原子力委員会、放射線化学中央研究機構の敷地を群南邨岩鼻(現高崎市綿貫町)に決定</p> <p>昭和37年10月1日 高崎研究所準備室設置(本部)</p> <p>昭和38年3月27日 高崎研究所起工式</p>		
1963	<p>昭和38年4月1日 高崎研究所設置</p> <p>昭和38年8月26日 理事会議、高崎研の研究基本方針を決定</p> <p>昭和38年12月25日 1号加速器棟竣工</p> <p>昭和39年1月9日 コバルト60照射棟竣工</p> <p>昭和39年3月30日 高崎研究所開所式</p>	1968	<p>昭和43年5月7日 トリオキサンの放射線固相重合技術を開発(タカフェストと共同)</p> <p>昭和43年5月17日 事務棟竣工</p> <p>昭和43年6月1日 不飽和ポリエステル樹脂のキュアリングプロジェクト発足</p> <p>昭和43年6月12日 〔財団法人放射線照射振興協会発足〕</p> <p>昭和43年7月4日 〔原子力委員会、食品照射共同利用施設の高崎研内設置を決定〕</p> <p>昭和43年11月6日 米国BNLと第1回年次研究討論会開催(BNL:~8日)</p> <p>昭和43年11月18日 第1回放射線化学コースを開講(大阪研究所)</p> <p>昭和43年12月16日 1号加速器共同利用を開始</p>
1964	<p>昭和39年4月24日 詰所及びモックアップ棟竣工</p> <p>昭和40年1月12日 RI工学試験棟、同照射棟竣工</p> <p>昭和40年3月30日 研究棟竣工</p>		
1965	<p>昭和40年5月10日 原研とフランス原子力庁(CEA)との間で放射線化学に関する研究協力協定調印及び第1回連絡委員会開催(東京)</p> <p>昭和40年9月21日 エチレン重合用中間規模試験装置により粉末ポリエチレンを製造</p> <p>昭和40年9月30日 トリオキサンの放射線固相重合装置完成</p> <p>昭和40年10月20日 高崎研究所運営委員会設置</p> <p>昭和40年10月25日 第1回原子力の平和利用展開催(高崎市)</p> <p>昭和40年12月 中間規模試験装置によりスチレンをグラフト重合したポリノジック繊維を製造</p> <p>昭和41年1月26日 コバルト60照射施設の共同利用を開始</p> <p>昭和41年2月4日 2号加速器棟竣工</p>	1969	<p>昭和44年4月13日 エチレン中間規模試験装置120時間連続運転を達成</p> <p>昭和44年5月8日 ポリ塩化ビニルの放射線による改質技術を開発</p> <p>昭和44年7月20日 トリオキサン中間規模試験装置100回重合運転を達成</p> <p>昭和44年8月2日 皇太子、美智子妃両殿下高崎研を御訪問</p> <p>昭和44年12月25日 2号加速器の共同利用を開始</p>
1966	<p>昭和41年6月14日 2号加速器搬入</p> <p>昭和41年12月24日 3号加速器棟竣工</p>	1970	<p>昭和45年7月1日 コバルト60第2照射棟竣工</p> <p>昭和45年10月12日 IAEA放射線化学コースを開催</p> <p>昭和46年2月1日 〔厚生省、放射線滅菌医療用具の国内販売許可〕</p>